

再評価結果（平成21年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局地方道・環境課
担当課長名：吉崎 収

事業名	主要地方道 <small>ぎのわんきたなかくすく</small> 宜野湾北中城線	事業区分	地方道	事業主体	沖縄県
起終点	自：沖縄県北中城村安谷屋 至：沖縄県北中城村渡口			延長	2.6 km
事業概要	主要地方道宜野湾北中城線は、国道58号、国道330号、国道329号を連結する中部圏域の東西道路として、また、沖縄自動車道のインターアクセス及び中城湾港新港地区等へのアクセス道路として重要な路線であり、中部圏域の産業基盤を支援するとともに、近年の交通量の増加に伴う交通渋滞の緩和を図るものである。				
H11年度事業化	H 年度都市計画決定 (H 年度変更)	H12年度用地着手	H18年度工事着手		
全体事業費	135億円	事業進捗率	59%	供用済延長	0.0km
計画交通量	43,900～58,200台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 13.4 (残事業) 53.9	総費用 (残事業)/ (事業全体) 34/136億円 (事業費：32/135億円) (維持管理費：1.6/1.6億円)	総便益 (残事業)/ (事業全体) 1,828/1,828億円 (走行時間短縮便益：1716/1716億円) (走行経費減少便益：71/71億円) (交通事故減少便益：41/41億円)	基準年：平成20年	
事業の効果等	・沖縄自動車道、中城湾新港地区等へのアクセス強化 ・交通渋滞の緩和・安全・快適な歩道空間の創出 (他3項目に該当)				
関係する地方公共団体等の意見	・北中城村から宜野湾北中城線の整備促進の要請書がある				
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	平成19年10月に喜舎場スマートICが本格運用され、さらなるアクセス機能の強化が求められている。また、中城湾港新港地区において、沖縄IT津梁パーク整備事業等の進展により、新たな企業の立地や雇用の創出が図られ、これらの施設への円滑なアクセスが求められている。				
事業の進捗状況、残事業の内容等	用地取得予定面積のうち約72%が取得済みとなっている。トンネル(L=256m)及び改良工事を推進する。				
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	米軍基地の返還が遅れている。筆界未定(14筆)や単価不満により、交渉が難航している。土地収用法に基づく手続も視野に入れた対応を進め平成20年代中頃の完了を目指す。				
施設の構造や工法の変更等	トンネル内の歩道幅員の縮小及び先進導坑を省略した無導坑式掘削工法へ変更してコスト縮減を図る。				
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性はあると考えられる。				
事業概要図					

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。